

# 会 議 記 録

会議名称	第3回 杉並区みどりの基本計画検討委員会	
日 時	令和5年12月13日(水) 18:00 ~ 20:03	
場 所	杉並区役所8階第AB会議室	
出席者	委員	9名
		河村委員、佐藤委員、竹内委員、和田委員、石川委員、稲田委員、武井委員、野田委員、峯岸委員
	事務局	5名
		都市整備部土木担当部長：土肥野 都市整備部みどり施策担当課長：吉野 都市整備部みどり公園課みどりの計画係長：北澤 都市整備部みどり公園課みどりの計画係：長谷川 都市整備部みどり公園課みどりの事業係：津金
傍聴者	3名	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○次第</li> <li>○杉並区みどりの基本計画検討委員会（第3回）資料</li> <li>○（別紙1）杉並区みどりの基本計画素案構成</li> <li>○（別紙2）関連計画との取組比較一覧表</li> </ul>	
<p>会議要旨</p> <p>1 開会</p> <p>○事務局 資料の確認。会議録を作成し区公式ホームページで公開するため録音すること、傍聴人3名であることについて説明。</p> <p>2 議題</p> <p>○事務局 杉並区みどりの基本計画の目標の再検討について説明。</p> <p>○進行役 ただ今の説明について、ご質問・ご意見をお願いします。</p> <p>○委 員 今回の資料は、定性的にも定量的にもブラッシュアップしたのかなと思います。ただし、目標数値は、再度よく考えてはと思います。例えば、スライド16番にあった区民満足度は、目標が高いもの低いもの両方あると思いますので、検討の余地があります。区政モニ</p>		

ターアンケートは極端な傾向があるので、この数字をそのまま使うのは果たしてどうだろうと感じました。スライド 14 番の鳥類種類数は根拠があっているのですが、鳥類の行動範囲は 10 kmといわれているので、杉並区単体のみで考えるだけでなく、周辺地域も加味して考えた方がよいと思いました。公園の充足率についても考え方はよいと思います。しかし、駅前を埋めていくのは現実難しいと思います。充足率について、区全体で考えるのか、もしくは駅前を除くのか考えどころです。スライド 11 番の目標についてですが、数値も時々見直していくことも必要だと感じました。区民意見は様々あると思いますが、どこまで反映していくのか課題です。

○委員 そもそも理想像について教えてください。こういう理想があるからこういった目標数値が適切だろうと言える。理想像がないとどこまで数値を増やせばよいかわからない。例えば、公園の充足率はどの様にして上げるのか。住宅をどかして公園を作れば充足率は上がりますが、上位計画と競合することになります。何かをすれば何かが悪くなるといったトレードオフの関係だと思っています。理想像に対する目標数値でないと、数値は改定の度に上がっていくことになります。何か釈然としない感想です。また、外来種を除くと記載されていますが、外来種の種数をいくつ以下にするのかについても目標はありますか。

○事務局 外来種については、特定外来生物であれば生態系を乱すこともあります。鳥も含めて悪さをするばかりの外来種だけでもないので、そこまでは考えていません。

○委員 スライド 16 番ですが、目標値の上げ率はどれだけのいいのでしょうか、実現性はあるのでしょうか。

○事務局 前は他の区の目標値が 60%と低いことから、区民満足度を 80%で維持しようという説明をしました。しかし区民意見では 100%やもっと上げてもいいのではないかとということだったので数値を変えたところですが、しかし、どの数値が正解なのかは正直ないと思います。

○委員 %の目標は経験値としてですが、行政や企業の 5 年計画で 4~5%、10 年の計画で 7、8、10%弱が目標かなと。年 1%上昇が目標数値かなと思います。

○事務局 基本方針のつなぐとかが無くなって、次回に示してもらえるとのことでしたが、差し支えなければ教えてもらえる範囲で教えてもらえればと思います。また、公園にすぐに行けるという目標は良いと思いましたが、人によって大好きという考え方が違う中で、主観的な「大好き」を記載してもいいものなのか気になりました。いろいろな生きものが出会えるということで、鳥類の指標はいいと思います。ただ、杉並区の生物地域性多様性戦略がない中で、環境部の目標設定があるのかないのか、杉並区の自然環境調査で大御所の方も住んでいる区なので、なにか土台があつての設定なのか。指標種も重要ですが、生態系の保全や緑地のネットワークはどうなっているのか。鳥類は飛べますが、飛べない他の生きものもいますので、自然環境の目標設定というところではもう少し議論を深めたいところです。

○事務局 「大好きな」という表現は悩みました。目標としては大きな公園にすぐ行けるのが正しいと思いますが、区民の方がイメージする理想像と結びつきにくいのではないかと考え、あえ

て曖昧な表現にしました。また、「大きな公園」が「大好きな公園」と思う人だけではないと思いますし、そうではないからこそ将来的には大きな公園を大好きになってもらいたいと思い、先を見越して「大好き」という表現にしました。

○委員 大きな公園に限らず小さな公園でも区民が自分たちの力で自由に使える公園はみんなが大好きになる公園になるし、それが充足できればいいなと思いました。

○事務局 鳥以外のネットワークづくりについても、蝶々、バッタなどは移動距離が短いので、みどりのベルトなど身近なネットワークで検討していきたいと思います。

○委員 みどりのベルト作りの目標があったらいいなと思いました。

○委員 まず、緑被率の目標数値は既存数値 25%なので下げられないのだろうなと思いました。また、緑被率の数値が伸びているとはいえ、鈍化傾向です。25%ではいいのですが、緑被率が偏在しているので、今後、緑被率が低いところを底上げしていくなど検討する必要があります。次に、公園充足率についてですが、多世代の基本方針があるので半径500mで3,000㎡を目安にしているのだと思いますが、この目標が方針を引用していると分かるように説明できればいいなと思いました。最後に、区民満足度の調査人数が少ないように感じました。答えてもらえる人や調査方法によって満足度が変わるし、この調査結果が区民を代表しているのか気になるところです。例えば、防災みたいなところは、区民意見にもありましたが、歩いて行けるとか、備蓄とか、人数に比したオープンスペースなどで割と定性的にデータが作れると思います。満足度は、災害や戦争などの世情にかなり影響されると思いますので、防災はもう少し、定性的データに頼った方がよいのではないかと思います。

○委員 スライド15番の樹木と草花を育てていく区民の割合の数値について、どのように上げによくわかりませんでした。草花を育てたい人にとっては簡単なことだと思います。しかし、みどりに興味がない人、関心がない人がみどりを育てていくのには方向転換するのは難しいことなのかなと思いました。興味をもってもらい、数値をあげていくにはどうしたらいいのかなと思いました。また、目標の「大好きな」は、「魅力ある」、「過ごしやすい」、「憩いの」、「みどりある」といった表現のほうが個人的にはイメージしやすいです。

○委員 同じくスライド15番についてですが、「樹木・草花」という表現ではなくて「植物」にした方よいと思いました。なぜならば野菜が弾かれてしまっているからです。区内の農地は、野菜を作っているのが80%ですし、区民農園をしている方もほとんど野菜ではないでしょうか。野菜を育てるのもみどりの1つだと思いますし、表現を変えた方がよいと思いました。

○委員 既存のみどりの質を高めて、みどりの存在感と風格をどうするのかについて、今のところ見えてこないなと感じました。貴重木についての記載はあるのですが、貴重木に加えて、身近な街区公園のケヤキなどの樹木に敬愛をもって接することができるような施策が必要だと思います。スライド25番「まちなみ景観を支えるみどり」は捉え方が難しいと思いました。みどりがあれば景観が良くなるだけでもないし、そこに係わる人達が生き生きとみどりとどう関わるかで景観も変わってくると思います。景観というと、目障りな景観

をどう排除していくのかも課題になると思います。それも含めてみどりが包含してもいいのかなと思いました。

○委員 区民意見収集をぎりぎりまでしていたので仕方ないとは思いますが、これでいこうとしていた基本方針がぶれてしまったので、数値が出てきても何がしたいのか、方針が何なのか、分からず議論がうまく進まないように思います。次回までに整理しないとまとめるのは難しいと思いました。大きな公園だけでなく、小さな公園にもコンパクトで魅力的なところもありますので、面積で区切ってしまってよいのかなと思いました。

○委員 基本方針の事務局の素案があればわかる範囲で教えてもらえませんか。

○事務局 考え方は今悩んでいるのが現状です。今までは、守る、作る、増やすと分かりやすい表現でした。しかし、なぜ増やすのか、なぜ作るのかについてもっと違う形で伝えていかないと、その意識が自分ごととして捉えることができないのではないかと考えています。例えば、気候危機も直面しているためみどりの必要性について考える、それはいったいどのような取り組みなのかなど。しかし、難しい言葉だと、子どもたちの環境学習には分かりにくいというところもあり悩みどころです。また、大好きな公園についてですが、好きではない人もいます。しかし、行政として大好きな公園を目指して作るというのであれば、何%を目標値として上げるのかはハードルが高いのではないかについても事務局内で話しています。

○事務局 みどりの将来像と基本方針の候補について、事務局が説明（省略）

○委員 みどりが主役になる表現もあったので、斬新だなと思いました。

○委員 現状の方針を見ていて、杉並のみどりが、まちの風格を作る、ランドスケープになるという視点が足りていないのではないかと感じました。みどりが風格やシビックプライドを高めるといったビジュアル的なみどりを作っていくということも必要だと思いました。

○委員 「杉並らしい」とは何でしょうか。

○事務局 考え方は人それぞれだと思います。「屋敷林」のようなみどりが杉並の原風景だと考えてきましたが、先日の聴くオフ・ミーティングではそうではないという方もいらっしゃって、全ての区民がそう思っているわけではありません。そのため「答えがない」ということが答えだと思います。杉並らしさを決めるのではなく、人それぞれ「杉並らしさ」は違うけど、最終的なゴールは同じという方向にもっていきのいいのかなと思っています。

○事務局 事務局でも悩んでいる部分があり、もう少し話題を絞るのか一本化するのか決めていく必要もあるかと思っています。目標については、ある程度方向性が定まっていなくて話が進まないというご意見いただきました。そのほか景観にもつながるお話しになるかもしれませんが、風格だとか歴史あるものをどう取り込んでいくのか、新しい提案なども含めて事務局で考えを次回までに詰めさせていただきたい。

○委員 目標値があると思いますが、誰も住んでいないところに都市計画の網をかける方法ならばいいが、杉並区は人がぎちぎちに住んでいます。目標値を上げていくためにデメリットがあるはず。一番の課題は予算、次に利便性です。予算ということについてどう考えているのでしょうか。この委員会では予算を考えずに理想のみ書けばいいのかそれとも予算も加

味して考えていけばよろしいですか。その点についてどう捉えればよいのでしょうか。

○事務局 積み上げだけで考えると難しいです。緑化もしていますが、みどりの量が増える要素として、都立公園未開園部分の整備がある。緑被率は世田谷区や練馬区が下げた中で杉並区が減っていないのは和田堀公園、高井戸公園の整備が影響しています。杉並区も宅地化されるまとまった土地があると考えた場合、積み上げでみていく計画とした場合には、都立公園の整備が大きいと考えています。一方、杉並区は緑化計画を全件に指導しています。緑被率が減少するスピードを若干抑える形での効果はあると思います。あと、既存のみどりをどのように残していくのかについて、取り組みを考える必要があると思います。そのためには、樹木を残そうとするだけでなく、特に民有地のみどりは地域の理解が必要です。敷地が狭小化していく中で、落ち葉や日陰の話しをどう考えるのか。

○委員 杉並区は人口を増やしていくつもりなのか知りたい。人口を増やした方が税収は増える。人口は増やしませんというような上位計画があれば、公園を買う土地の予算はこれだけになり、これだけ目標値に近づきますと言えます。

○事務局 今のところ、人口は59万人程度いますが、人口をこれ以上増やすとか、これ以上来ないでくださいとは言えない。ただ、これから年数が経っていくと、減少に転じていくのだろうという見方です。それに見合うようなみどり作りをしなければならぬのかなと思っています。一方で、都心に地方の人が集まっているのが事実ですので、宅地開発されてしまっているのが現状です。そして大きなお屋敷林が細分化されているという事実があります。

○事務局 なるべくまとまったみどりを守っていきたいと思う部分はありますが、相続があると失われるのが多いのを、それをどうやって守るのが長い杉並の緑化の歴史の中で一番大きな課題で、なんらかの形での取り組みを引き続き進めていく必要がある。

○委員 この目標のため、おおよそこれくらい必要だろうという具体的な数値は入れるのですか。

○事務局 他の自治体と違い、住宅都市というイメージがありますので、そのイメージを崩さないようにしたいところです。それは上位計画にもあります。杉並らしいみどりについては何なのかお話しがありましたが、聴くオフ・ミーティングで様々な年代の方からご意見をいただきました。杉並区に30・40年間住んでいる人にとっては、農地や屋敷林が杉並らしい風景や面影を描いていました。しかし、最近杉並区に住み始めた人にとっては、他の地域に比べてみどりが多いなと思って、来ている人なので、今のみどりを大切にしてほしいのが杉並らしいみどりだという意見もありました。

○委員 増やさなくても、他から来たら、杉並はみどりが多いイメージですね。

○委員 高齢化がじわじわ進む中で、みどりがあることが健康作りにつながるのか、公園の周りに住む人は心臓疾患が少ないとかメンタルヘルスがいいとかというエビデンスが海外ではたくさん発表されている。ヘルシー関係の切り口がみどりの基本計画に入らないのが残念で、人口動態について踏み込むのであれば、どういう人が増えるのか、医療費を抑えていくためのみどりの役割まで突っ込んでいけると、10年後20年後も踏まえていいのかなと思いました。

- 委員 自分の杉並らしいみどりについては、歴史的なみどりの豊かさがあります。荻外荘公園のような文化的素養や豊かさ、それに伴う人々の活発な意見もあるのかなと思いました。居間を移設までして荻外荘を復原するというのは住民と職員のバックボーンと大きなヒューマンウェアがあるのだろうなと思いました。説明いただいた将来像と基本方針は、特徴が得られているのではないかと思います、「選ばれる」という表現が微妙で、地域間競争が激化する中で、住民としても住みやすさ暮らしやすさとなると、ビジョンと実態がかけ離れないよう表に出すビジョンとしてはもう少し広い観点が必要だと思いました。将来像については、もっと考えた方がよいと思いました。
- 事務局 杉並区みどりの基本計画の目標の取り組み一覧について説明。
- 進行役 ただ今の説明について、ご質問・ご意見をお願いします。
- 委員 これから空き家が増えてくると思います。空き家が浸水域であれば、マーケット価格で購入して雨庭にしたりする方法もあるのですか。そこは遊水地になるのだから、自然環境も整うと思います。防災上の意味、ヒートアイランド現象の緩和も含めて一石二鳥だと思うのですが。
- 委員 今回区民が自分ごととして考えていく場合、これだと行政主導に見える。区民はすべての取り組みに関わることができると思うので、考え方を大きく変える必要があります。樹木・樹林地の保全も区民ができることはあるはずですし、農地の保全は国分寺市がよい例ですが、区民・農家・行政がパートナーシップをとっています。みどり量のことからいうと、例えば、エコロジカルネットワークの場合、区がつくるものでなく自分たちが参画して庭やベランダもエコロジカルネットワークの拠点になります。みどりのベルトづくりも区民は参加できます。安心安全な区民ニーズに応える公園づくりというところでは、「区がやってあげます！」というように見えます。そうではなくて、行政は区民ニーズに全て応えることはできないという中で区民が主体となって、自分たちのニーズを自分たちで満たしていくことができる、公園を使いこなしやすい、参画できるような方法を考えていったほうがよいと思います。基本方針のすべてに区民が参画できると思うのですが、区民の参加は最後の基本方針の中にしかないように見えてしまいます。ここの基本方針であれば、こんなことができるよといったようなことを入れ込んでおくことが必要。このままでは、官がサービスを提供して区民がもらいますといった今までどおりの構図から抜け出せない。最後に、みどりの関心についてです。環境学習をボランティア頼みになっているのですが、もっと戦略的に進めた方がよいです。みどりに関心をもってもらう、興味を持ってもらうことは非常に重要なことだと思っていて、環境部も何かやっていると思いますので、連携を図りながら書き込むのがいいと思いました。情報発信にしても、イベント発信にしても、区がやるのではなくて区民がするのをどう実現するのか、視点を180度変えて、区民目線に立ったほうがいいでしょう。官は、今まで自分ごととして進めてきたと思いますが、これからは書き方の視点を変えて進めていかないと、区民が自分ごとにならないのかなと思いました。
- 委員 読んでみるとハード的な整備を中心に盛り込んでいますが、区民が主体となってどのよう

に公園を使っていけるのが重要です。海外の事例だと公園でコーヒーを飲んでくつろいだり、数時間過ごせたりしています。新宿御苑や上野公園ではカフェができて賑わって、今まで若い人は利用していなかった公園でも若い人が利用しています。杉並区でもキッチンカーがありますが、公園に魅力の付加価値を付けて、公園の一部を区民利用ができるように文言を盛り込んだ方がよいのではないのでしょうか。家の近くには桃井原っぱ公園があります。何もない原っぱなので利用価値がありますが、くつろぐとなると、周辺集合住宅からポッと出てきて、少し話してまた家に戻るといようなアクティブのような感じがしません。だから、本当は公園のニーズがあると思いますが吸いきれない、公園を利用しきれないということもあるので公園の魅力を何で付加するのか、区民の活動の場としてどう引き出すのか考えていくと、身近な場所での公園のあり方、利用の価値も高まっています。利用が高まると質も高まり、質を高める事業も区で用意するのがいいと感じました。

○委員 大体はまとまっているのではないかと思います。公民連携としてもうひと段階進めた方が良いでしょう。以前、掃除の箒などを公園において自由に利用できたらいいよねとみどり公園課長がお話ししていたかと記憶していますが、今も花咲かせ隊とかありますが、公民連携で公園のルールづくりと公園の運営という形を広い意味で素地を広めていった方がよいのではないかと思います。海外の事例を見ると、アメリカでは政府機関がストップしそうなこともありました。財政的な問題もありますので、公民協働の下地を積極的に進めていくのが良いのではないかなと思いました。

○委員 都市計画公園の区域、未着手の場所、開園率、特別緑地保全地区・生産緑地区・風致地区の場所など、入れていった方がいいと思います。前計画にもなく、どこに何を進めていこうとしているのかわからない。下高井戸おおぞら公園ですとか、区は、積極的に公園整備を進めているのに、それが計画に見えないのが勿体ないです。これだけ住宅地だと公園整備を進めるのは大変なのに、実は大きな公園、都も高井戸公園とか整備を進めています、区も負けずに進めている。昔民間だったグラウンドなどが、今どの程度残っているのかについても個人的に知りたいですので、都市計画に関する基本情報は載せた方がいいと思います。次にニーズなのですが、インクルーシブ遊具を記載していますが、健康遊具のニーズもあるのではないかなと思いました現場を聞いた感じだと、高齢者も多いので、健康遊具のニーズも高いですし、世田谷区だと子どもの遊具に高齢者がぶら下がって体操をしていると聞いたこともあります。トイレの洋式化とか、レベルアップして暖かい便座が欲しいといった声も聞いています。あと、日陰が少ない公園で、急に雨が降ったりすることもあるので、公園に屋根があればいいと思います。これは建蔽率のことでもありますので、難しいとは思いますが、これだけ暑いとくつろげる場にもつながるので、高齢者のニーズもあるように思います。あと、区のスタンスですが、区民を応援するみたいな書き方がいいと思います。杉並には専門家の方が住んでいらっしゃるって、昔から環境団体がすごく積極的に頑張っていたり、善福寺川公園の夢水路の管理をしていたりする事例もあります。逆に今やっている団体にスポットを当てて、写真を載せて活動を広報、地元のPR誌に委託するなど、そういうところを応援する書き方がいい方が、これから自分ごとやっ

きましょうというよりいいと思います。その方がやろうかなという思いになると思います。

○委員 区民意見を見ていくと、区民は、お金のかかる行政サービスを求めているような感じがしています。まだまだ、自分ごととして捉えることが難しいのだなと感じました。既に活動されている団体はいますが裾野を広げない限りは、自分ごととして捉える意識は高まらないと思います。区民の声を聴く場、区民が考えさせる機会を提供して、みどりとはこうなのだなといったことを、自分ごととして考えることが大事だと思いました。みどりを守ることにはお金がかかります。先日、青梅街道の銀杏並木をクレーン車で1本1本枝を下す姿を見て、びっくりしました。みどりを守る、増やすと言うことは簡単ですが、お金のかかること、税金がかかっていることも知ってもらう機会も必要だと思いました。知ってもらうことが、まず大事だと思いました。

○委員 ボランティアに頼りすぎているのではないかと感じました。お金を払ってでも、みどりの専門家として育てることも必要かと思いました。保護樹木の剪定費用についてですが、屋敷林所有者の人と話しましたが、今の一定額をもらっても仕方がないから、剪定費用を何割かを補助してほしいと言っていました。

○委員 杉並区はボランティアを区で募集して育てていると思います。それはそれで良くて、落ち葉感謝祭も区民のボランティアが頑張っていると思いますが、どういうボランティアが実際にいるのか、また市民活動団体や事業者の方々とどういうところでパートナーが組めるのかなど、リストアップして、またヒアリングして進めるといった表現にしないと、ボランティア頼りになってしまうと感じました。自分ごととしてみどりを考えた場合、色々な分野の方々が区民にはいて、教育機関や福祉、医療従事者、商売をやっている人、農家、観光、文化、芸術、アーティストがみどりを自分ごととして捉えられるような仕掛けを作っていくのがイノベティブだと思います。読むと、今まで通りのみどりの基本計画だなと思っています。私たちは、アーティスト、スポーツ関係、教育関係と組んでやっていますが、行政だと縦割りで、縦割りがちがちなみどりの基本計画だなと読んでいました。視点を変えて、違う分野の方がみどりを使って何ができるのかを逆に考えていかないと区民全体の自分ごとにはならないのではないかと感じました。国土交通省も公園はまちづくりの場だと言い切っていて、それで新しい取り組みや担い手が必要だと言っています。仕組みや担い手を今までの通りのボランティアの方々に頼るのではなくて、医療分野、教育分野、福祉分野、不動産の分野はみんなみどりに注目していますので、みどり分野の行政が受け入れオープンにしていろんな人が流入して自分ごととして考えると、書き方が違ってくる。せっかくの杉並区のみどりの基本計画なので、イノベーションしたらいいなと思いました。また、別の委員が、カフェとかあるといいよねと仰っていましたが、しっかりとした収益施設が無くても、区民の方がアマプロで、カフェをキッチンカーやテントで出店、私もしているのですが、そういうことが気軽にできるといいです。実際、杉並区の某公園で、某児童遊園で、底地を企業が持っていて、企業がリニューアルして、お店やマルシェをしたいと区に相談していたようなのですが、断られ続けていたようです。区も色々言い分は



あると思いますが、やっぱり柔軟に使いこなせない事業者や区民はいるのではないかと思います。今後パークマネジメントプランのような別のプランニングが必要なかもしれませんが、そこも合わせて、基本計画の中で、誰もが使いこなせる公園作りにプラスの力を入れて頂けるといいなと思いました。

○委員 自分ごとを住民視点からお話ししますと、6月頃に昔の広報すぎなみで、水害が出るところに土嚢を貸し出しますという案内があります。私も実際河川に面しているので土嚢をお借りする形になりますが、土嚢をトラックで運んできてもらい作業してもらうのは恐縮です。防災公園は土嚢の袋と土があれば、自分で土を入れて扉や生垣に置くというような、完成品ではなく半製品のような形で用意のみして、後は自分で作業してもらうというようなやり方も防災の意味ではいいです。費用や管理諸々含めて、土嚢や土があればいいわけですので、その考え方も1つの選択肢なのかなと感じました。

○委員 スライド23番ですが、最近の子供たちは公園で何をしているのでしょうか。私は全然昼間に公園に行くことがないので、遊んでいるのかいないのか、公園に行ってゲームしているのかなとか。私は50を過ぎていますが、ボール1個あればみんなで遊べるような年代なのですが、そういうことをしているのかしないのか、高齢者のことも必要だし、幅広い年代というところではどうですかということ。次に、スライド27番ですが、連携していくという点では、生徒側でも教員側からでも、自分の学校にどんな植物があるのか、どんな樹木があるのだろうかということもあってもいいのかなと思います。イチヨウとかモミジは時期的に色が変わっていくから、そういう名前は出ると思いますが、他にも樹木があります。

○委員 日経新聞でグリーンインフラについて、自宅の庭のコンクリートをはがして何かやったら、杉並区の誰かについて記事を見つけました。杉並区では、自宅の庭のコンクリートをはがして土にするといった補助はあるのか、それが、スライド25番雨水の地下の浸透化促進による補助の対象なのでしょうか。

○事務局 たしか世田谷区が補助を始めるという記事がでていました。区でも始めていくのか、グリーンインフラについて世田谷のような観点で始めるのか、それとも幅広くするのかというのはあります。雨庭やレインガーデンを公園だけでなく民有地でもやる場合、従前では、浸透枳や浸透管の補助をしていました。今後、そういったものにも広げていくのか。

○委員 そういったものもあると自分ごととして感じるのかなと、もしやっているのであれば、もっとアピールした方がいいと思ったのですが、まだ、これからなのですね。

○事務局 たしか、その話の中で、杉並区民の話もあったかと思います。

○事務局 これからやる話もあるのですが、今までやってきた取り組みもあります。住民参加している部分もあります。実際にやっていない人もいる中でいくと、区も情報収集して、計画で見せていく、どうやって見せていくのかは、写真で見せるのか、活動で見せるのか、実績数値で見せていくのかについて考える必要があると思います。そういったことを自分ごととして繋げて、行政は行政のトーンでの書き方になっていますが、やっていないことはないし、色んな活動はしているけど、それが一律でないとする、分かりやすく伝えていく

必要はあると思います。先週の聴くオフでも言われましたし、地域説明会でも言われたのですが、区はやっていることをPRするのがうまくないねと。引き続きの延長線になるのかもしれないけど、もうちょっとPRして見せ方を考えていくと広がりがあるかと思います。落ち葉感謝祭も確かにやっちはいるけど、人数的にはコロナの関係もあってあんまり増えておらず、広げていく必要はあるのかなと思いました。

○委員 PR やみどりの基本計画の概要版も含めて、地域のプロにお願いした方がいいかと思いました。豊島区は地域の新聞で、公園のPRをして進んだと思います。それから農福連携をされていてすごくいいのに、PR されていない。とても先進的だし、農の風景を守ることとか、地域の人福祉の向上にもつながっている。ぜひPRするとともに、福祉系の施策と結びついて維持管理について、他課の予算や人員を使うことも考えてはいいのではないのでしょうか。すでに連携や取り組みをしている公園や農地を取り上げて、福祉の場や教育の場として使うから該当部署の予算を使えば、お金がないということも解消されていくのかなと思いました。質問ですが、管理の方針について他の自治体だとP-PFIや法律が変わってどう入れていくのかなどが入りますが、今の管理では入れていかないでこのまま進めていくのかは聞いておきたいと思いました。もし、何かやろうとしているのであれば、盛り込んだ方がいいと思います。

○事務局 法にもとづいたものは入れていくことにはありますが、正直 P-PFI を全面に押し出すところまでは考えていません。

○委員 無理に入れる必要はないと思ってまして、それはそれでいいと思います。しかし、区民ニーズがあるとか、区の中でも関わりたい、外から大きな企業が指定管理をとらなくても区内の小さな企業がちょっとやってみたい、そういうときに P-PFI 制度など書いてあると進められると思います。

○委員 ニーズはあるのにもどかしい。

○委員 外から事業者が来るのがP-PFIという負の側面ではありますが、浜松では、地元の古民家を地元企業がP-PFIでリニューアルして、昔ホテルに勤めていた人がレストランのシェフとして働くなど、地域の方が参加しています。事業者は電気の企業なのですが、電気の配線をきめ細かいことができるのでとても良くて、私はいいい1例だと思いました。もし、そういうニーズがあれば、地域の企業と連携した公園管理もあるのかなと思いました。

○委員 傍から見ていると、もったいなくてしょうがない。こんなに言われているのに。

○事務局 基本計画なので、どういう方向で進むにしろ書いておけば、メニューとして使えるのは確かにありますね。

○委員 制度のことを書かなくても、地元の頑張る企業と協働して取り組んでいきますというような書き方もあるのかなと。

○事務局 P-PFI は書かないにしても、多様な主体が関わる公園管理の在り方みたいなものは、区だけでやるわけではないという書きぶりとしてあると思う。

○委員 P-PFI はあくまで手段なので、地域の民でも官でもやる気のある人とみんなと一緒にやっていくというようなこともいいと思います。

○委員 私は区内に住んで36年になりますが、すぐ近くには観泉寺、少し離れば井草八幡、東京女子大の森、それをつなぐように、そんなに大きくはないのですので所々に農地、屋敷林があります。農芸高校もありますので、生徒さんが作った苗を、私が通っている床屋にはプランターで置いて頂いています。そんな身の回りを見てみると、こんなにいいところはないと思う。桃井原っぱ公園では、朝はおじいちゃんおばあちゃんがラジオ体操をして、次に保育園児がわあわあ遊ぶのですが、広い公園だから声が上がっても誰もうるさいなんて言いませんし、それを午前中お散歩に来たお年寄りが楽しそうに見ている。放課後に小学生、夕方に高校生、夜にはサラリーマンがマラソンをする、そういった風景はとても魅力的です。それがうまく発信されていないところがあり、こんな魅力的なところだとわかってもえれば、おのずとそれに関わる人、関わってみたい人たちも出てきます。それをうまくつなぐ人も出てきて、自分たちの活動が地域に見えるようになってくると、その人たちも育ち、成長、成熟する、循環するのが杉並のみどりのありかただと思います。みどりの基本計画でもこういったことが表現できればいいなと思いました。

○委員 12 ページのみどりと水、生き物の生息場所の箇所は自然共生サイトのことかと思いますが、どうやって具体化していくのか、次のステップなのかかもしれませんが、環境部とどう連携していくのか。地域戦略の策定の予定はないのでしょうか。

○事務局 生物多様性地域戦略については、どのようにするかは決まっています。

○委員 鳥類のことも記載していますが、ほかの委員からとても解像度の高いイメージをもらえたので、もう少し解像度を高めて、杉並のみどりはどうなっているのかを環境部でなくてもみどり公園課で記載してはどうか。現状をみんなで確認して、情報データをもとに民も区民も区役所もみんなで会議して、ああだこうだ、ここはこうだねと話しながら、進めていく時代だと思います。その中で、生きものの生息場所もどこにどれだけあって、どのようにすればみどりのネットワークで生態系が繋がっていくのかなどきちんと発展できるような書き方、今後の計画に生かしていければと思いました。また、OECM という世界データベースに載っていくような制度の中で環境省が認定している自然共生サイトを、杉並区では親水施設の1箇所できているので、大々的に取り組んで頂きたいと思います。拡充なので、解像度高く書いてほしいと思いました。

○進行役 具体的にどうしていくのか、本日頂いた意見を踏まえて、行政が作ったものでない場合にどうなるのかを進めていきたいと思います。

○事務局 みどりの将来像や基本方針が定まらない中で、ご意見ありがとうございました。区民が自分ごととして考えた場合、関心を持ってもらえるのが大事ですので、みどりの基本計画は、委員も仰っていましたが、イノベーションみたいなものを作りながらでないと、おそらく、環境、災害の関心にも繋がらないと思いました。事務局でも、行政ではない区民目線で作りたいと思います。

### 3 連絡事項

○事務局 次回のスケジュールなどについて説明（省略）